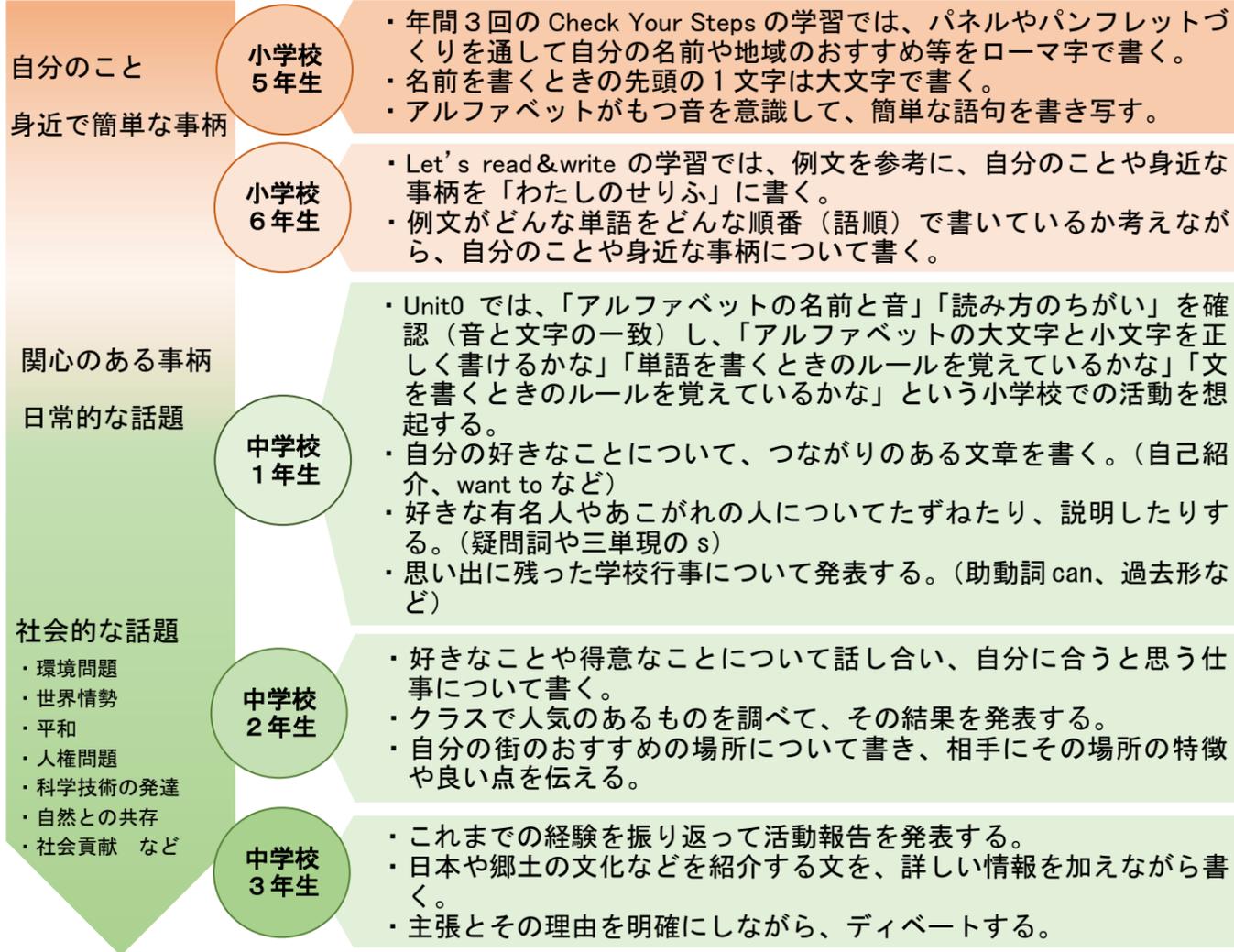


### 3 「書くこと」の目標を踏まえた学年間・校種間の引継



#### 小学校外国語科「書くこと」の目標

- ア **大文字、小文字**を活字体で**書く**ことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な**語句**や基本的な**表現**を**書き写す**ことができるようにする。
- イ 自分ことや身近で簡単な事柄について、**例文を参考に**、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて**書く**ことができるようにする。



#### 中学校外国語科「書くこと」の目標

- ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて**正確**に書くことができるようにする。
- イ 日常的な話題について、**事実や自分の考え、気持ちなどを整理**し、簡単な語句や文を用いて**まとまりのある文章を書く**ことができるようにする。
- ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

#### 令和4年度札幌市英語教育改善プラン会議 推進委員会

- 【推進委員】 あいの里西小学校 教諭 高橋 文 あいの里東中学校 教諭 小野 構大  
真栄小学校 教諭 中島 裕美 清田中学校 教諭 西島 明子  
平岡公園小学校 教諭 川上 大 上野幌中学校 教諭 大谷 尚弘
- 【アドバイザー委員】 北海道教育大学札幌校 教授 萬谷 隆一
- 【事務局】 札幌市教育委員会 指導主事 児玉 麻知子 指導主事 上野 智恵美
- 令和4年12月発行 札幌市教育委員会

### 令和4年度札幌市英語教育改善プラン 参考資料③

#### 校種間の円滑な学びを意識した「書くこと」における指導例

札幌市教育委員会

札幌市では、外国語教育の推進において、「小中一貫した教育」パートナー校間（以下、「パートナー校間」という。）で、子ども理解や指導等について教師間の連携・協働を通し、学びのつながりを踏まえた授業づくりを図っています。本資料では、校種間の円滑な学びを意識した「書くこと」における指導例を紹介します。

#### 1 「書くこと」における小学校の学習から中学校の学習へのつながり

小学校5・6年生の外国語科では、「話すこと」「聞くこと」に加え、「読むこと」「書くこと」の学習が始まります。「読むこと」「書くこと」については、慣れ親しむことを大切にした指導を行う必要があります。「聞くこと」「話すこと」と同等の指導を求めるものではありません。

学習指導要領の「書くこと」における目標を理解し、各学校においては、子どもの実態に応じた指導と課題を踏まえた工夫を図ることが大切です。

#### Q. 小学校での「書くこと」の学習について教えてください。

##### ○小学校5年生では...

- 歌やチャンツを通して、アルファベットの文字には、「名前 (a, b, c)」と「名前以外に語の中で用いられる音」があることを学びます。
- 4 線上に書かれた大文字と小文字の高さの違いや左右非対称の文字など、形の特徴をつかみ、一文字ずつ4 線上でなぞったり、書き写したりします。



小学校の先生

##### ○小学校6年生では...

- やり取りや発表などの言語活動を通じて音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、語順を意識しながらなぞったり、書いたりします。
- 自分の考えや気持ちを伝える際は、例示された語句から子どもが選んだり、指導者が個別の子どもに提示したりするなどして書きます。

#### ★指導のポイント

- 単元の終末の学習活動としてスピーチやポスター、カード等を作成する際、単元の序盤から言語活動を行うごとに表現を書き溜めて、それらの表現を使えるようにします。
- ポスターやカード等を作成する際には、伝える目的や読み手について子どもと共有することによって、子どもが読み手を意識して書こうとする意欲を高めます。

#### Q. 中学校では、小学校で「書くこと」に慣れ親しんだ学習状況を踏まえ、入学当初においては、どのような工夫ができそうですか。



中学校の先生

- アルファベットの文字と音のつながりを知ることやアルファベットを書くことは小学校で慣れ親しんでいるため、中学校でも歌やチャンツなど音声を通して振り返っています。文字の綴りや自分の名前を書くことは、小学校で学習しているため、入学当初に自分の名刺カードを作成し、自己紹介を行っています。
- 単語を書くときのルールや文を書くときのルールについて、知っていることを確認してみましょう。ルールを意識しながら書くことが苦手な子どもがいるかもしれません。
- 主語、動詞はなぞり書きし、目的語や補語などの部分は、例示の語句を参考に自分の考えや気持ちを書くなど、段階的な指導を行っています。

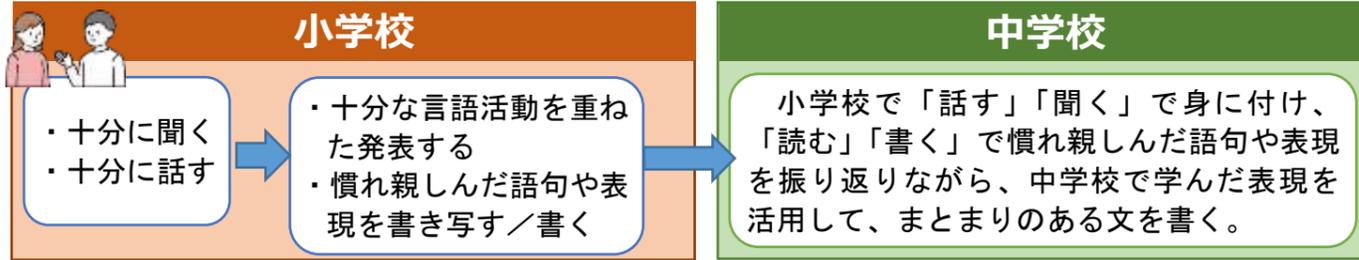
パートナー校間において、情報交流や授業参観等を行うことによって、子どもにとって「分かる」「できる」「楽しい」授業づくりの充実につながります。

(中学校には複数の小学校から入学する場合が多いため、小小連携の視点も大切。)

## 2 「書くこと」における校種間のつながりを意識した指導例

### 事例① 小学校で作成した発表物等の中学校での活用

中学校でまとまりのある英文を書く活動に当たっては、小学校で作成した「わたしのせりふ」やポスター、カードなどの発表物の活用が、中学校への学びの充実につながります。パートナー校間で、教科書やPicture Dictionaryの継続使用について確認しておくこともできそうです。



### ○小学校6年生 [Unit 1 This is me!]

自分の名前や好きなもの・ことを伝え合い、名刺交換をしよう。

- ①名前や好きなこと、誕生日について言語活動を行い、やり取りした表現を「わたしのせりふ」「プロフィールカード」に書く。
- ②中学校の「All About Me!ポスター」と題材が似ていることから、本単元が中学校でもつながりがあることを子どもと共有するとともに、校種間連携において、授業づくりや教材等を共有して、中学校につなげる。

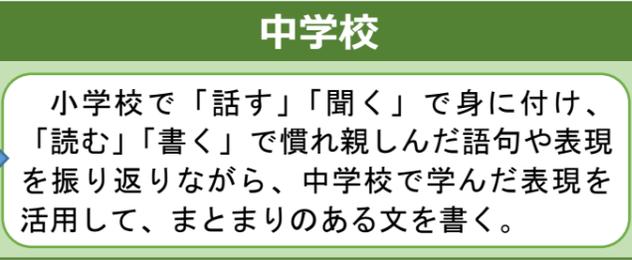


(小学校6年生 Unit 1 プロフィールカード)

### ○小学校6年生 [Unit 8 My Future, My Dream]

中学校生活や将来について考え、「夢宣言カード」に書いてスピーチする。

- ①中学校で楽しみたい学校行事や得意なこと、部活動や将来なりたい職業などについて伝え合い、「わたしのせりふ」に書く。
- ②「わたしのせりふ」を声に出して読み、ALTや先生に伝える。
- ③「夢カード」カードを集めてシャッフルし、誰のカードかを当てる。



### ○中学校1年生 [Stage Activity 1 "All about Me" Poster]

校内の掲示板に自己紹介ポスターを貼り、先輩や先生、授業参観で訪れる人に自分を知ってもらおう。

- ①小学校で書き溜めた「わたしのせりふ」や作成した「プロフィールカード」を中学校に持参し、小学校で学んだ語句や表現を思い出す。
- ②言語活動を通して学んだ、自分のことについて伝える表現を「Your Turn」に書き溜める。
- ③①や②の表現を振り返り、モデル文を参考にしながら「All about Me!ポスター」等の発表資料を作成する。
- ④聞き手に分かりやすい発表になるよう、文と文の順序や相互の関連に注意を払い、「話題導入」「具体的な情報」「読み手への質問やメッセージ」という全体の流れを意識して、つながりのある文章を書く。



(中学校1年生 Stage Activity 1 ポスター)

夢などを発表する表現は小学校で練習したよ。小学校のスピーチを思い出してみよう。どんなことを伝えたいかな。



### 事例② 目的・場面・状況に合わせた表現の整理・活用

小学校では「目的・場面・状況」にフォーカスして言語活動を行い、話したり、書いたりしていくなかで「文構造」の気付きを促すことから、中学校では、小学校で取り扱った話題や場面をSmall Talkなどの場面で繰り返して扱うことによって、子どもが小学校で学んだことを思い出しやすくなります。

また、小学校では、日本語と英語の語順の違いなどの文構造の気付きを促すため、教科書や教材で工夫されている紙面づくりを中学校でも取り入れると、子どもは理解しやすくなります。

### ○小学校6年生 [Unit 4 Summer Vacations in the World]

夏休みの思い出を振り返り、クラスの友達に紹介しよう。

- ①夏休みの過ごし方や昨日したことなどについて、ALTの先生が話している内容を聞いて、新しい表現に触れるとともに、チャンツや歌、絵カードを使って声に出して、文字と音に慣れる。
- ②行った場所、楽しんだこと、食べたもの、感想などについて、言語活動を通して伝え合う。
- ③右図「わたしのせりふ」の灰色の文字(赤枠部分)をなぞり、青枠には自分の考えや気持ちについて、例を参考にして書く。



なぞる

例を見て自分のことについて書く

#### 小中のつながりを意識した工夫

日本語と英語の語順の違いに気付き、文構造を意識しながら書くことができるよう、ワークシートの紙面づくり、板書でのカードの貼り方、端末の活用などにおいて工夫していることについてパートナー校間で情報交流することによって、学びの接続を図ることができます。

### ○中学校1年生 [Unit 5 A Japanese Summer Festival]

行った場所や楽しんだこと、夏休みや最近体験したことについて、クラスの友達に紹介しよう。

- ①小学校で扱われている話題や場面を扱う際、小学校で書き溜めた「わたしのせりふ」や発表資料を活用したり、Picture Dictionaryを継続使用したりすることによって、子どもは小学校で用いた表現を思い出しやすくなる。
- ②小学校で「わたしのせりふ」に書き溜めたように、中学校においても、言語活動で用いた表現を「Your Turn」に書き溜める。※中学校では、簡単な語句や文は、文構造や文法事項を正しく用いて、正しい語順で文を構成して正確に書くことや、整理したり、確認したりしながら、まとまりのある文章を書くことを目標としていることに留意する。

#### 小中のつながりを意識した工夫

入学して間もない時期は、小学校で学習したように、なぞり書きや例を参考としながら一部を書くようにして、全文を書けるようになるため、段階的な指導を行います。単元終末に急にまとまりのある英文を書くのではなく、①②の学びを踏まえて、目的や場面、状況に応じて、掲示物、手紙やメールが負担なく書けるよう単元デザインを工夫します。

### [Unit 10 Winter Vacation]

冬休みやお正月にしたことについて、たずね合い、話し合ったことを、ノートなどにまとめよう。

夏休みにどんなことをしたかな。「思い出」をいうとき、小学校のときにどんな単語を使ったか思い出してみよう。



あれは「過去形」という文法なんだね。